

京都大工 庄司 光

大阪市大 花田嘉代子

プール学院 沖谷 康子

四天王寺学園女子短大 西野 静栄

1 昭和 32 年に尼ヶ崎市内 1 ヲ所, 大阪市内 5 ヲ所, 豊中市内 1 ヲ所において 4 種類の被服材料を夏, 冬夫々 1 ヲ月間, 屋外の百葉箱中に懸垂して布の汚染, 糸の強伸度の変化を測定し, 昭和 33~34 年に大阪市内において, 夏, 秋, 冬, 春夫々, 3 ヲ月間宛, 5 種類の布について同様の測定を行った。

2 木綿(ブロード), 絹(羽二重), 羊毛(モスリン), ナイロン, アセテート(デシン)を用い, 25×45cm の針金枠に張って夫々百葉箱中に懸垂し, 一定期間放置後水溶性汚物(Cl, NH₃, LMnO₄消費量, SO₄), 反射率, 糸の強伸度の測定を行った。同時に, 布懸垂期間中の測定場所の降下煤塵量, 大気中の亜硫酸ガスを測定した。

3 (1) 昭和 32 年の成績によれば, 布の汚物付着量は一般に冬は夏より大である。

(2) 場所別には Cl, KMnO₄, SO₄ は大阪市大正区が第 1 位, 豊中市が最下位である。NH₃ 付着量は豊中市が最下位であるが, 最上位は季節により一定しなかった。

(3) 昭和 33 年の成績によれば, 布別の汚物付着量は Cl 順位が一定せず, NH₃ は木綿が最大であるが, 他は大差がない。KMnO₄ 消費量は大体において木綿とアセテートが大きく, SO₄ も大体において木綿・絹が大きい。

(4) 反射率による汚染度は, ナイロン木綿が低い。